



医薬品輸出梱包対応施設「KIX-Medipac」の新設について ～日本の空港初となる医薬品梱包上屋がオープン～

関西国際空港では、かねてより関西国際空港を活用した医薬品の輸出入促進に、地元自治体、経済界等と連携して推進しています。

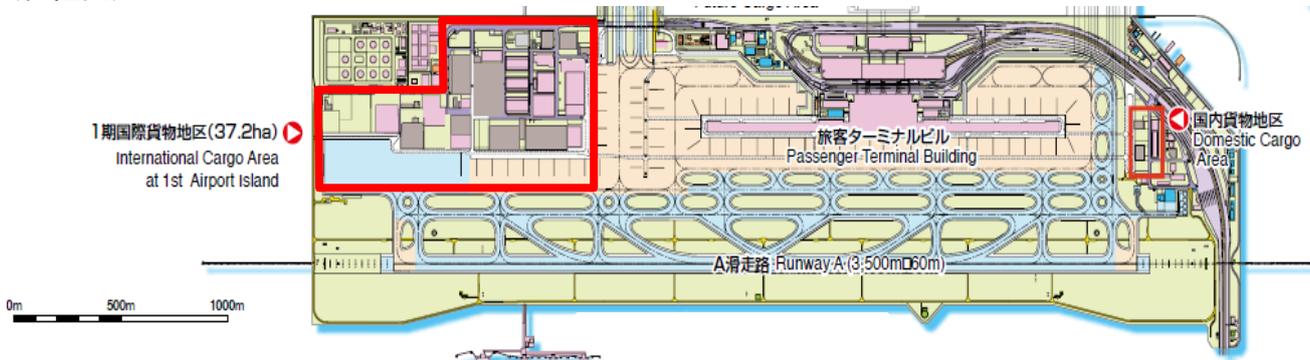
この度、関西国際空港の国際貨物地区に、医薬品の輸出梱包に特化した施設(名称:KIX-Medipac)が新たに整備されることになりました。1つの上屋内で医薬品の定温輸出梱包、保管ができる施設が整備されるのは、日本の空港で初めてとなります。

関西国際空港では、「医薬品専用共同定温庫(KIX-Medica)の設置」「保冷ドレーの運用」等、空港全体をつなぐクールチェーン構築に取り組んでまいりましたが、KIX-Medipacの整備により、医薬品輸出時に、当該梱包を施すことで、目的地までより安全で確実に輸送することが可能となりました。

今後も、関西および西日本を中心とした医薬品を取り扱う皆様に、高い利便性と品質を引き続き提供してまいります。

- 施設名称 KIX-Medipac (キックス・メディパック)
- 施設概要 国際貨物地区 A 棟内の約 1450 m²(底下含む)の区域に、20℃帯(約 50 ～100 m²)、5℃帯(約 50～100 m²)の 2 温度帯をカバーする約 150 m²の定温庫を設置。
- 施設の特徴 上屋内に各種梱包設備と約 150 m²の定温庫を設置。
日本から輸出する小～中ロットの温度管理が必要な医薬品を、輸送時の外気温等外部環境をシミュレーションし、専用の特殊な梱包材、保冷剤、蓄熱剤等を的確に使用して定温庫内で個別に梱包することで、温度逸脱などのリスクを大きく軽減することができ、目的地までのより高品質な輸送が可能となります。
- サービス開始日 2015年5月25日(月)
- 整備・運営会社 ワコン株式会社 【URL:<http://www.wa-con.co.jp/>】
(参考)平成26年度関空物流ニュービジネスモデル認定事業です。

(位置図)





1期国際貨物地区

International Cargo Area at Phase1 Island



KIX-Medipac

